令和８年１１月２日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

病害虫発生予察情報

１ 令和８年度　病害虫発生予察　予報第８号（11 月）
２ 気象情報　九州北部地方１か月予報（福岡管区気象台）
　　気象台メモ（大分地方気象台）

向こう１か月間における農作物の主な病害虫の発生動向は、次のように予想されます。

◎予報内容の概況

作物	病害虫名	発生面積		発生量		掲載ページ
		平年比	前年比	平年比	前年比	
夏秋トマト	**すすかび病**	少ない※	前年並	少ない※	前年並	P.2
	灰色かび病	平年並※	前年並	平年並※	前年並	P.2
	コナジラミ類	平年並※	やや多い	多い※	多い	P.3
	トマトキバガ	－	少ない	－	やや少ない	P.4
白ネギ（平坦地）	**ネギアザミウマ**	多い	やや多い	やや多い	やや多い	P.5
	シロイチモジヨトウ	多い	やや多い	やや多い	やや少ない	P.6
	ネギハモグリバエ	やや少ない	少ない	やや少ない	少ない	-
イチゴ	**うどんこ病**	平年並	少ない	平年並	少ない	P.7
	ハダニ類	やや少ない	少ない	やや少ない	少ない	P.8

※夏秋トマトの平年比は R3～R7 の平均値と比較

◎注意事項 上記一覧表病害虫のゴシック体のみ以下に個別の記述をしています。
夏秋トマトの 10 月調査は、令和３年度から開始のため、前年比のみです。

◎特記事項 令和８年度病害虫発生予察注意報第５号（トマト トマトキバガ）　：令和８年 7 月 22 日
令和８年度病害虫防除技術情報第８号（夏期における白ネギ害虫防除）：令和８年 7 月 29 日
令和８年度病害虫発生予察注意報第９号（ネギ シロイチモジヨトウ）：令和８年10 月 26 日

夏秋トマト

1　すすかび病

（1）予報内容

発生面積：R3～R7 平均より少ない

発 生 量：R3～R7 平均より少ない

（2）予報根拠

ア　10 月中旬の巡回調査では、発生は確認されなかった。夏秋トマトの 10 月巡回調査は令和 3 年度から開始のため、R3～R7 の平均値と比較したところ、発生圃場率、平均発病葉率ともに平均より低かった。

発 生 圃 場 率：　0%　（R3～R7 平均：44.0%、前年：0%）

平均発病葉率：　0%　（R3～R7 平均：　8.7%、前年：0%）

イ　本病は比較的高温条件で発生が助長されるが､向こう 1 か月の気象予報によれば､平均気温は､平年並 20%、高い確率 70%と予想されている（気象情報参照)。

（3）防除上注意すべき事項

ア　肥料切れ、過繁茂、排水不良は病勢の進展を助長するので、下葉のつみ取り等を行って圃場内の通風を良くし、初期防除を徹底する。

イ　施設内の換気を十分行い、過湿防止に努める。

ウ　予防効果のある薬剤を定期的に散布し予防を徹底する。

2　灰色かび病

（1）予報内容

発生面積：R3～R7 平均並

発 生 量：R3～R7 平均並

（2）予報根拠

ア　10 月中旬の巡回調査では、発生は確認されなかった。トマトの 10 月巡回調査は令和 3 年度から開始のため、R3～R7 の平均値と比較したところ、発生圃場率、平均発病葉率ともに平均並であった。

発 生 圃 場 率：0%（R3～R7 平均：　0　%、前年：0%）

平均発病葉率：0%（R3～R7 平均：　0.1%、前年：0%）

イ　本病は多湿条件で発生が助長されるが、向こう 1 か月の気象予報によれば、降水量は、平年並 30%、多い確率 50%と予想されている（気象情報参照)。

（3）防除上注意すべき事項

ア　ハウス内の過湿防止に努める。

イ　発病葉や発病果は伝染源となるので見つけ次第除去し、圃場外に持ち出して処分する。

ウ　同一系統薬剤を連続使用しないようにし､他系統薬剤とのローテーション（輪番）使用を行う。

3　コナジラミ類

（1）予報内容

発生面積：R3～R7 平均並

発 生 量：R3～R7 平均より多い

（2）予報根拠

ア　10 月中旬の巡回調査では、多発生が 1 圃場、中発生が 1 圃場、微発生が 2 圃場であった。発生種は、オンシツコナジラミとタバココナジラミであった。夏秋トマトの 10 月巡回調査は令和 3 年度から開始のため、R3～R7 の平均値と比較したところ、発生圃場率、平均株当虫数ともに平均より高かった。

発 生 圃 場 率：33.3%（R3～R7 平均：28.0%、前年：16.7%）

平均株当虫数：16.0頭（R3～R7 平均： 1.9頭、前年： 2.1頭）

イ　本虫は高温乾燥条件で発生が助長されるが、向こう 1 か月の気象予報によれば、平均気温は、平年並 20%、高い確率 70%、降水量は、少ない確率 20%、平年並 30%と予想されている（気象情報参照)。

（3） 防除上注意すべき事項

ア　本虫は葉裏に寄生して吸汁加害し繁殖も旺盛なため、早期発見に努め発生を認めたら直ちに防除を行う。

イ　本虫は多種の雑草にも寄生し増殖するので、圃場内外の除草を徹底する。

ウ　タバココナジラミはトマト黄化葉巻ウイルス（TYLCV）を、またコナジラミ類はトマトクロロシスウイルス（ToCV）を媒介するため、薬剤散布を徹底するとともに、防虫ネットなどを使用してハウス内への侵入阻止を徹底する。

エ　オンシツコナジラミは IRAC コード「4A」（アセタミプリド）に対して薬剤感受性が低下しているため、本虫を対象としたアセタミプリド剤の使用は控える。

4　トマトキバガ　（令和 8 年 7 月 22 日　令和 8 年度病害虫発生予察注意報　第 5 号発表）

（1）予報内容

発生面積：前年より少ない

発 生 量：前年よりやや少ない

（2）予報根拠

ア　10 月上半期のトマトキバガフェロモントラップ調査では、1 地点当たりの誘殺数は前年よりやや少なかった。

平均誘殺数（合計）：313.7 頭（前年：482.2 頭、前々年：469.2 頭）

イ　9 月末時点のトマトキバガ食害調査では、累計 40 戸で葉への被害が確認された。

食害戸数（累計）：40 戸（前年：124 戸、前々年：33 戸）

（3）防除上注意すべき事項

ア　一斉防除の効果が高いので、産地の防除暦等を活用して地域ぐるみで防除を行う。

イ　圃場内をよく見回り、見つけ次第捕殺する。

ウ　被害葉や被害果は圃場内から持ち出すとともに、野外に放置せずに速やかに適切に処分する。

エ　県内ではトマト、ミニトマト及びナスで発生が確認されている。海外では、タバコ、バレイショ、ホオズキ等のナス科作物やマメ科のインゲンマメ も寄主植物として確認されている。

オ　本虫と類似するハモグリバエの食害痕は、葉裏からは確認できない。一方、本虫による食害痕は葉裏側からも透けて確認できる。

白ネギ（平坦地）

1　ネギアザミウマ（令和 8 年 7 月 29 日　病害虫防除技術情報　第 8 号発表）

（1）予報内容

発生面積：多い

発 生 量：やや多い

（2）予報根拠

ア　10 月中旬の巡回調査では、発生圃場率、平均被害度ともに平年より高かった。

発生圃場率：100 %（平年：48.4%、前年：75.0%）

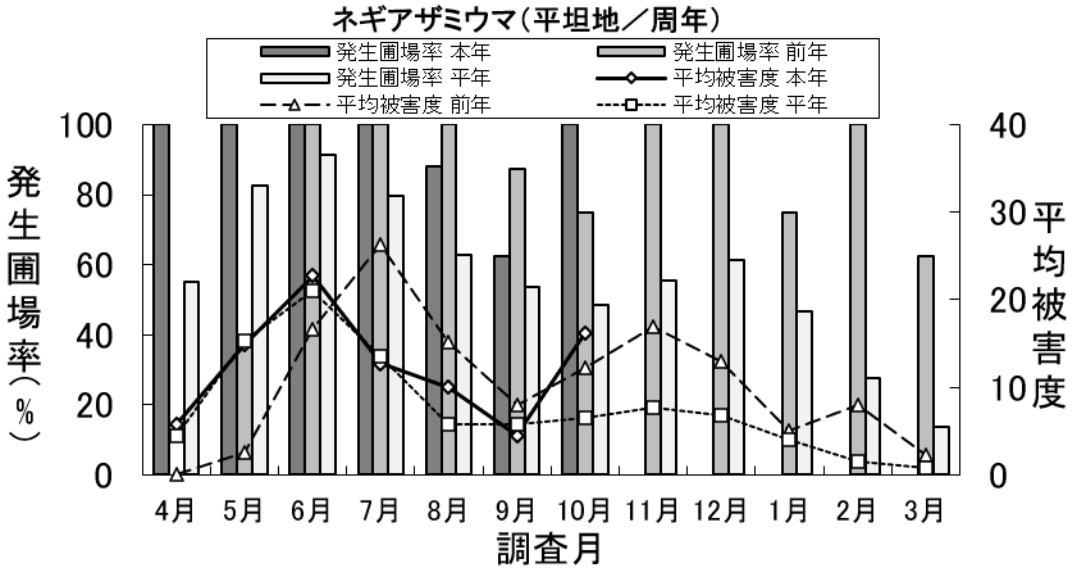
平均被害度： 16.1　（平年： 6.5　、前年： 12.2 ）

イ　本虫は高温乾燥条件で発生が助長されるが、向こう 1 か月の気象予報によれば、平均気温は、平年並 20%、高い確率 70%、降水量は、少ない確率 20%、平年並 30%と予想されている（気象情報参照)。

（3）防除上注意すべき事項

ア　周辺雑草が発生源となりやすいので、圃場内外の除草を徹底する。

イ　本虫の増殖力は高く、寄生密度が上昇してからでは防除が困難であるので、早期発見に努め防除を行う。



2　シロイチモジヨトウ（令和 8 年 10 月 26 日　病害虫発生予察注意報　第 9 号発表）

（1）予報内容

発生面積：多い

発 生 量：やや多い

（2）予報根拠

ア　10 月中旬の巡回調査では、発生圃場率は高く、平均被害葉率は平年よりやや高かった。

発 生 圃 場 率：100 %（平年：69.6%、前年：75.0%）

平均被害葉率：　8.4%（平年：　6.7%、前年：11.8%）

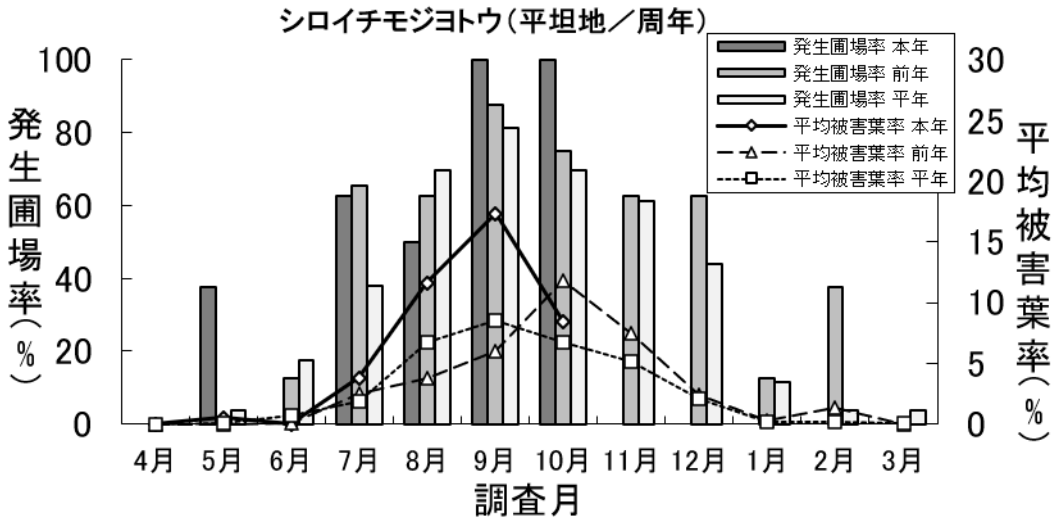
イ　本虫は高温乾燥条件で発生が助長されるが、向こう 1 か月の気象予報によれば、平均気温は、平年並 20%、高い確率 70%、降水量は、少ない確率 20%、平年並 30%と予想されている（気象情報参照）。

（3）防除上注意すべき事項

ア　本虫は成長に伴って防除効果が低下するため、早期発見に努め防除を行う。

イ　本虫は薬剤に対する抵抗性を獲得しやすいため、IRAC コード表を参照して、系統の異なる薬剤とのローテーション（輪番）使用を心がける。

ウ　一部地域の個体群で IRAC コード「28」（ジアミド系薬剤）、IRAC コード「15」（フルフェノクスロン）および IRAC コード「18」（クロマフェノジド）に対する感受性の低下が確認されたため、散布後に防除効果の低下が見られる場合は使用を控える。



イチゴ

1　うどんこ病

（1）予報内容

発生面積：平年並

発 生 量：平年並

（2）予報根拠

ア　10 月中旬の巡回調査では、発生圃場率、平均発病株率ともに平年より低かった。

発 生 圃 場 率：　0%（平年：6.0%、前年：20.0%）

平均発病株率：　0%（平年：1.2%、前年：　1.2%）

イ　本病は気温 20℃前後で多湿と乾燥が繰り返される時に発病が助長されるが、向こう 1 か月の気象予報によれば、平均気温は、平年並 20%、高い確率 70%、降水量は、少ない確率 20%、平年並 30%と予想されている（気象情報参照)。

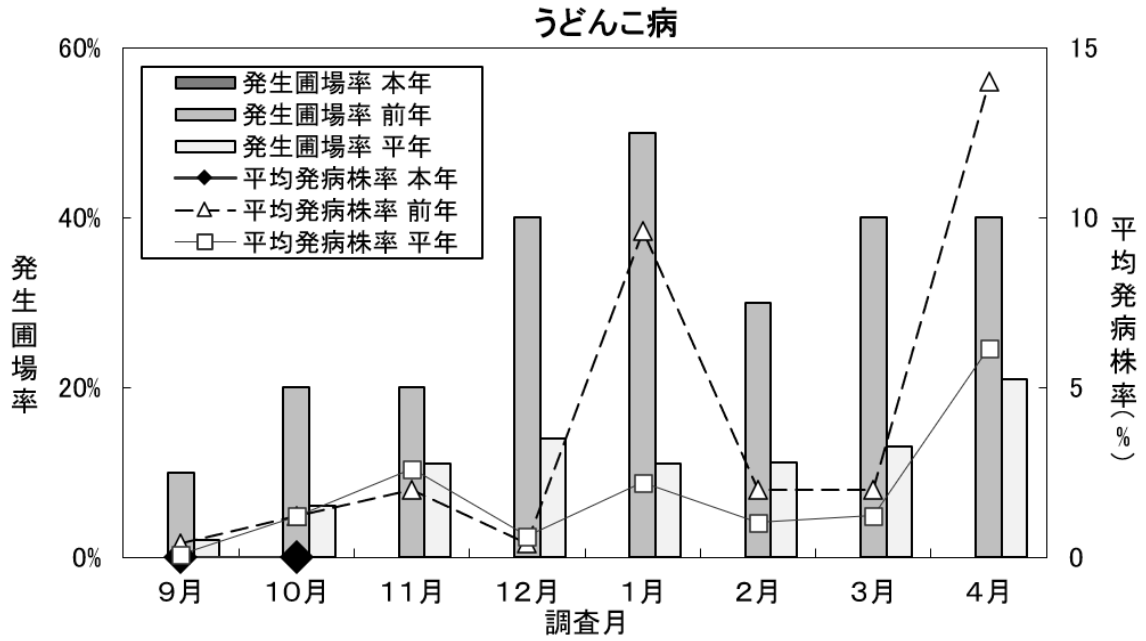
（3）防除上注意すべき事項

ア　初め葉裏に発生しやすいので、注意して早期発見に努める。

イ　発病初期のうちに治療効果の高い薬剤を中心に、散布間隔を短くするなどして集中的に散布する。

ウ　発病葉は伝染源となるので取り除き、圃場外に埋めるなどして適切に処分する。

エ　FRAC コード「3」（EBI 系薬剤）や FRAC コード「11」（QoI 剤）は連用すると耐性菌を生じやすいので、FRAC コード表を参照して他系統薬剤とのローテーション（輪番）使用を心がける。



2　ハダニ類

（1）予報内容

発生面積：やや少ない

発 生 量：やや少ない

（2）予報根拠

ア　10 月中旬の巡回調査では、発生圃場率、平均寄生株率ともに平年より少なかった。

発 生 圃 場 率：20.0%（平年：37.4%、前年：50.0%）

平均寄生株率：　1.6%（平年：13.4%、前年：29.6%）

イ　本虫は高温乾燥条件で発生が助長されるが、向こう 1 か月の気象予報によれば、平均気温は、平年並 20%、高い確率 70%、降水量は、少ない確率 20%、平年並 30%と予想されている（気象情報参照）。

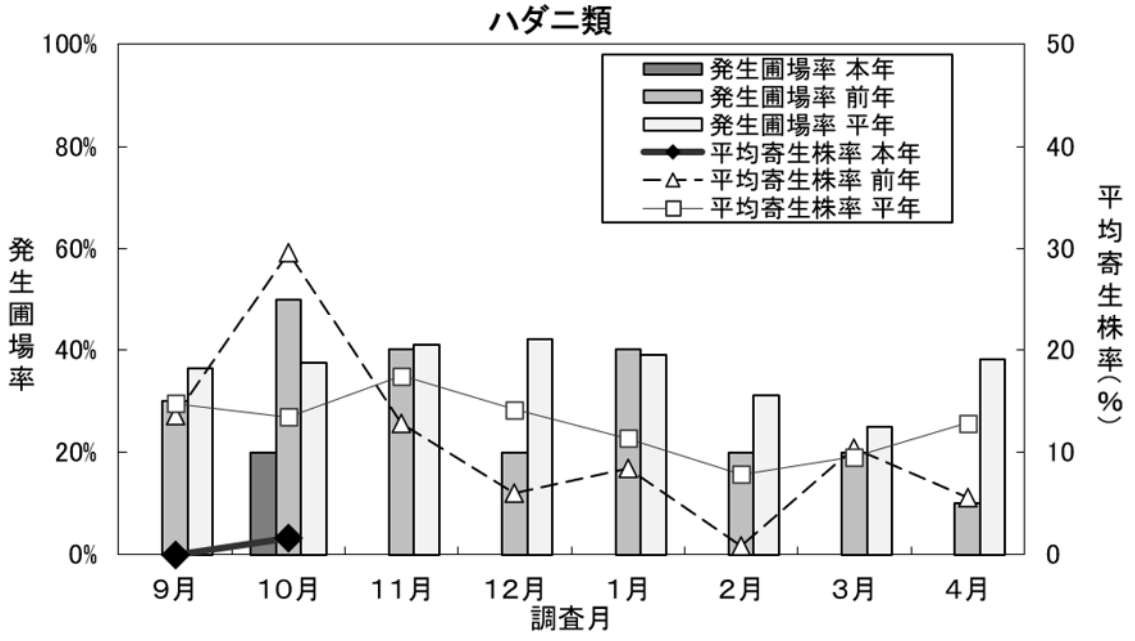
（3）防除上注意すべき事項

ア　本虫の増殖力は高く、寄生密度が上昇してからでは防除が困難であるので、早期発見に努め、葉裏を中心に防除を行う。

イ　本虫は薬剤抵抗性が発達しているため、薬剤散布後に防除効果の低下が見られる場合は使用を控えるとともに、天敵（カブリダニ類）の導入を検討する。

ウ　２回目以降の天敵放飼は、ハダニ類が確認できない場合でも予防的に実施する。

エ　乾燥条件下になるとハダニ類の活動が活発になり、天敵の活動が抑制される。



※薬剤の詳細は大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針、又は各地区防除暦を参照する

気象台メモ

大分地方気象台

◎　九州北部地方（山口県を含む）1か月予報（福岡管区気象台発表）

・発　　表：令和8年10月22日　（毎週木曜日に発表）

・予報期間：令和8年10月24日～令和8年11月23日

【予想される向こう1か月の天候】

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

期間のはじめは気温がかなり高くなる見込みです。天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。平均気温は、高い確率70%です。降水量は、多い確率50%です。日照時間は、少ない確率50%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率が80%です。2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。3～4週目は、高い確率が60%です。

【向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）】

要　素	予　報　対　象　地　域	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気　温	九州北部地方（山口県を含む）	10	20	70
降水量	九州北部地方（山口県を含む）	20	30	50
日照時間	九州北部地方（山口県を含む）	50	30	20

◎　九州北部地方（山口県を含む）3か月予報（福岡管区気象台発表）

・発　　表：令和8年10月20日

・予報期間：令和8年11月～令和9年1月

【予想される向こう3か月の天候】

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

平均気温は、高い確率60%です。降水量は、多い確率50%です。

11月　天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。気温は、高い確率60%です。降水量は、多い確率50%です。

12月　平年に比べ曇りや雨または雪の日が多いでしょう。気温は、高い確率50%です。降水量は、多い確率50%です。

1月　平年に比べ曇りや雨または雪の日が多いでしょう。気温は、高い確率50%です。 降水量は、多い確率50%です。

【向こう3か月の気温、降水量の各階級】

3か月　気温：高い　　降水量：多い

11月　気温：高い　　降水量：多い

12月　気温：高い　　降水量：多い

1月　気温：高い　　降水量：多い

【向こう3か月の気温の各階級の確率（%）】

気　温	予　報　対　象　地　域	低い	平年並	高い
3か月	九州北部地方（山口県を含む）	10	30	60
11月	九州北部地方（山口県を含む）	10	30	60
12月	九州北部地方（山口県を含む）	20	30	50
1月	九州北部地方（山口県を含む）	20	30	50

【向こう3か月の降水量の各階級の確率（%）】

降水量	予　報　対　象　地　域	少ない	平年並	多い
3か月	九州北部地方（山口県を含む）	20	30	50
11月	九州北部地方（山口県を含む）	20	30	50
12月	九州北部地方（山口県を含む）	20	30	50
1月	九州北部地方（山口県を含む）	20	30	50

◎　最近 1 か月の天候経過（令和 8 年 9 月下旬から令和 8 年 10 月中旬の天候）

9 月下旬

天気は、前半は高気圧に覆われて晴れる日が多かったが、後半は前線や湿った空気の影響を受けて曇りや雨が降る日が多く、雷を伴い大雨となる日があった。気温は、平年より高かった。降水量は、平年よりかなり多いか多く、佐伯と宇目では平年並、蒲江では少なかった。日照時間は、平年より多いか平年並みだった。

※大分市の旬平均気温は 23.5℃で平年より高かった。旬降水量は 76.1 ミリで平年より多かった。旬日照時間は 55.3 時間で平年より多かった。

10 月上旬

天気は、高気圧に覆われる日が多く、気圧の谷や湿った空気の影響を受け曇りや雨が降る日があった。気温は平年より高いか平年並だった。降水量は平年並みか少ないところが多く、椿ヶ鼻ではかなり少なかった。日照時間は、平年よりかなり多いか多かった。

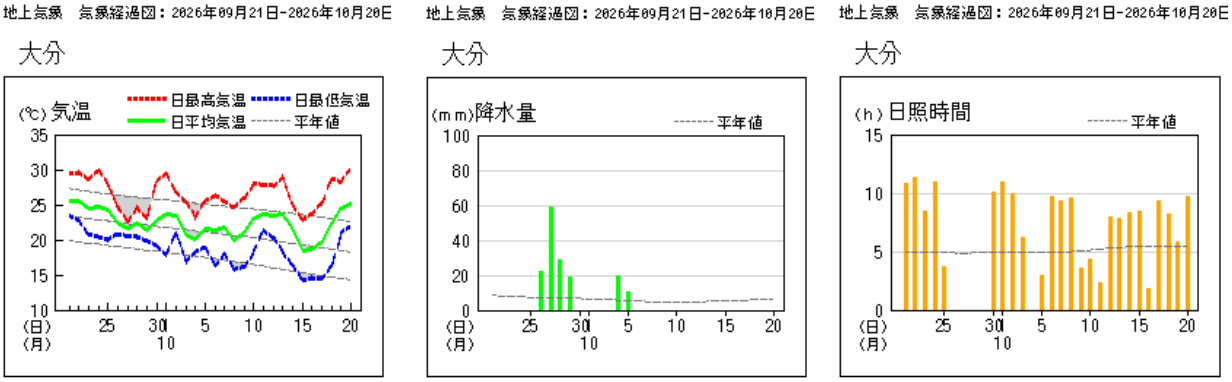
1 日は大分地方気象台ですすきの開花を観測した。平年より 9 日遅く、昨年より 5 日早かった。

※大分市の旬平均気温は 21.7℃で平年より高かった。旬降水量は 30.0 ミリで平年並みだった。旬日照時間は 66.6 時間で平年より多かった。

10 月中旬（高温）

天気は、高気圧に覆われる日が多かったが、前線や気圧の谷、湿った空気の影響で曇りや雨が降る日もあった。気温は、平年よりかなり高かった（高温）。降水量は、蒲江では平年より多く、耶馬渓、椿ヶ鼻、佐伯、宇目では平年並みだったが、平年よりかなり少ないか少ないところが多かった。日照時間は、平年より多いか平年並みだった。

※大分市の旬平均気温は 22.1℃で平年よりかなり高かった。旬降水量は 0.0 ミリでかなり少なかった。旬日照時間は 69.7 時間で平年より多かった。



地上気象　気象経過図：2026 年 9 月 21 日～2026 年 10 月 20 日

適正防除はホームページで!!

https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujosho/

または

病害虫対策チーム　検索

農業研究部　病害虫対策チーム
葉根菜類・茶業チーム
果樹グループ
花きグループ
地域農業振興課　安全農業班

大分県農林水産研究指導センター

農業研究部　病害虫対策チーム

〒879-7111　大分県豊後大野市三重町赤嶺 2328-8

Tel.　0974-28-2078

Fax.　0974-22-0940

大分県農林水産部地域農業振興課　安全農業班

〒870-8501　大分県大分市大手町 3-1-1

Tel.　097-506-3661

農薬は正しく安全に使いましょう！